【添付資料】出演者プロフィール

玉置浩二



1958 年、北海道旭川市生まれ。シンガーソングライター。1982 年にバンド「安全地帯」としてデビュー。「ワインレッドの心」「恋の予感」「悲しみにさよなら」など、数々のヒット曲で 1980 年代の音楽シーンを席巻した。
ソロ活動においても「田園」「メロディー」をはじめ、多くの名曲を生み出している。
2015 年からは国内外のオーケストラと共演するビルボードクラシックス公演をスタートし、現在に至るまで精力的にツアーを開催。2016 年にはバルカン特別編成交響楽団に管弦楽作品「歓喜の歌」を謹呈。
2025 年 10 月放送の TBS 系日曜劇場『ザ・ロイヤルファミリー』では、主題歌「ファンファーレ」（Sony Music）を書き下ろし、大きな話題を呼んだ。
公式サイト：https://saltmoderate.com/

大友直人（指揮）



桐朋学園在学中に NHK 交響楽団を指揮してデビュー以来、日本のクラシック音楽界をリードし続けている。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京交響楽団常任指揮者、京都市交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督を歴任。現在東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー。東京文化会館の初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築く。また、高崎芸術劇場の初代芸術監督を務め、数々の自主制作の企画を成功に導いた。海外オーケストラからも度々客演として招かれ、ハワイ響においては 20 年以上にわたり定期的に招かれている。
小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘らに学ぶ。NHK 交響楽団指揮研究員時代にはサヴァリッシュ、ヴァント、ライトナー、ブロムシュテット、シュタインらに学び、タングルウッドミュージックセンターではバーンスタイン、プレヴィン、マルケヴィチらにも指導を受けた。
大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。

米田覚士（指揮）



2025 年 9 月第 59 回ブザンソン国際青年指揮者コンクールで満場一致で優勝し、国際的に注目を集める。音楽への深い探求心と豊かな表現力で多くの共感を呼ぶ気鋭の指揮者である。これまでに札幌交響楽団、仙台フィル、群馬交響楽団、NHK 交響楽団、新日本フィル、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、東京シティ・フィル、東京交響楽団、パシフィックフィル、富士山静岡交響楽団、中部フィル、愛知室内オーケストラ、大阪交響楽団、日本センチュリー交響楽団、岡山フィル、東京混声合唱団などを指揮。
1996 年岡山市生まれ。東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。指揮法を小田野宏之、高関健の各氏に師事。安宅賞受賞。2017 年東京音楽大学特別講座指揮公開マスタークラスでパーヴォ・ヤルヴィ氏の薫陶を受け、同年 8 月には熊本県立劇場にて山田和樹氏の公開講座を受講した。2026/2027 シーズンは、ヨーロッパ及び日本各地で多数の公演が予定されている。

田中祐子（指揮）



東京藝術大学大学院指揮科修士課程首席修了。パリ・エコールノルマル音楽院オーケストラ指揮科高等ディプロム課程修了。東京国際コンクール「指揮」入選（最高位）、ブザンソン国際指揮者コンクール、ショルティ国際指揮者コンクールセミファイナリスト。2018 年 4 月－2020 年 8 月、オーケストラ・アンサンブル金沢指揮者。平成 30 年度（第 29 回）五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。
2020/21 年度ローム ミュージック ファンデーション奨学生。
2012 年渡独の後、フランスに移り、リヨン・パリにて研鑽を積む。2013 年クロアチア国立歌劇場リエカ管弦楽団に招かれ海外デビュー。NHK 交響楽団をはじめ全国各地のオーケストラと共演。2015 年藤原歌劇団「椿姫」でオペラデビュー。21 年の池辺晋一郎「千姫」（世界初演）では第 19 回三菱ＵＦＪ信託音楽賞奨励賞受賞。23 年、藤原歌劇団「二人のフォスカリ」、24 年、日本オペラ協会「ニングル」（世界初演,25 年 9 月再演）、25 年 3 月「静と義経」（新演出）、更に 26 年 3 月「奇跡のプリマ・ドンナ-オペラ歌手・三浦環の「声」を求めて-」（世界初演）とオペラ指揮者としても着実に実績を挙げている。
NHK-E テレ「クラシック音楽館」や NHK-FM「名曲アルバム」、テレ朝「題名のない音楽会」等、メディア出演多数。

角田鋼亮（指揮）



東海高校卒業後、東京芸術大学大学院指揮科修士課程並びにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008 年、カラヤン生誕 100 周年記念の第 4 回ドイツ全音楽大学指揮コンクール第 2 位入賞。2010 年、第 3 回マーラー指揮コンクールにおいて最終の 6 人に残った。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、上海歌劇院管弦楽団、NHK 交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団など主要オーケストラと共演している。2016 年「第 11 回名古屋ペンクラブ音楽賞」、2020 年「令和元年度愛知県芸術文化選奨文化新人賞」「名古屋市文化振興事業団第 36 回芸術創造賞」を受賞。2015 年よりセントラル愛知交響楽団の指揮者を、2019 年より常任指揮者を務める。2016-2020 年 大阪フィルハーモニー交響楽団指揮者、2018-2022 年 仙台フィルハーモニー管弦楽団指揮者を歴任するなど、いま日本で最も期待される指揮者の一人として各地にて活躍の場を拡げている。セントラル愛知交響楽団音楽監督を務めている。

東京フィルハーモニー交響楽団

1911 年創立。日本で最も長い歴史をもち、メンバー約 160 名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフ。定期演奏会や「午後のコンサート」、オペラ・バレエ演奏、NHK 他における放送演奏の他、各地での訪問コンサートや海外公演も積極的に実施。2025 年秋の名誉音楽監督チョン・ミョンフンとのヨーロッパ・ツアーで絶賛を博し、国際的な存在感を高めている。国民的番組『NHK 紅白歌合戦』『クラシック TV』の他 2020～21 年に『情熱大陸』『BS1 スペシャル』などのドキュメンタリー番組にも登場。1989 年より Bunkamura オーチャードホールとフランチャイズ契約を締結。文京区、千葉市、軽井沢町、長岡市と事業提携を、刈谷市と連携協定を結び、各地域との教育的・創造的な文化交流を行っている。
公式サイト：https://tpo.or.jp/

広島交響楽団

国際平和文化都市“広島”を拠点に“ Music for Peace～音楽で平和を～”を旗印として活動するプロオーケストラ。クリスティアン・アルミンクが音楽監督、徳永二男がミュージック・アドバイザー、下野竜也が桂冠指揮者、フォルクハルト・シュトイデがミュージック・パートナーを務める。1963 年に「広島市民交響楽団」として設立、1970 年に「広島交響楽団」へ改称。学校での音楽鑑賞教室や社会貢献活動にも積極的に取り組み、地域に根差した楽団として「広響」の愛称で親しまれる。またこれまでに、オーストリア、チェコ、フランス、ロシア、韓国、ポーランドでも公演を行い、ヒロシマのメッセージを音楽で海外へも発信。
公式サイト：http://hirokyo.or.jp/

セントラル愛知交響楽団
1983 年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市との音楽文化普及事業委託契約による事業補助を受け 1997 年に現名称に改名。2009 年一般社団法人となり、2021 年 4 月に愛知県より認定を受け公益社団法人となる。2023 年に創立 40 周年を迎えた。2019 年 4 月から常任指揮者に名古屋出身の角田鋼亮が就任（2024 年 4 月より音楽監督）。名誉音楽監督にレオシュ・スワロフスキー、桂冠指揮者に小松長生、特別客演指揮者に松尾葉子、首席客演指揮者に齊藤一郎、正指揮者に古谷誠一を擁し活動を行う。定期演奏会、コンチェルトの夕べ、第九、超！有名曲シリーズ、W コンチェルトシリーズなどを開催。バレエ、オペラ等の依頼公演にも数多く出演する。海外では 2007 年中国内蒙古自治区、2009 年タイ・バンコク（文化庁国際交流支援事業）、2017 年韓国・釜山（釜山マル国際音楽祭）で公演し成功を収める。
2015 年半田市と音楽文化振興の協定、2019 年一般財団法人稲沢市文化振興財団とも協定を締結。1996 年「平成 7 年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005 年「平成 16 年度名古屋市芸術奨励賞」、2007 年「第 2 回名古屋音楽ペンクラブ賞」受賞。
公式サイト：https://caso.jp/

九州交響楽団
1953 年創立。のち財団法人化を経て 2013 年から公益財団法人となり、九州の常設オーケストラとしてアジアの交流拠点都市“福岡”に本拠地を置く。「九響ビジョン」に掲げる活動理念のもと、アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、天神でクラシック、名曲・午後のオーケストラの自主公演の他、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど内容は多岐に渡り、福岡県を中心に九州各地で年間約 150 回の演奏活動を行っている。2013 年小泉和裕が音楽監督に就任。「ベルリオーズ／幻想交響曲」、「ベートーヴェン／交響曲第 9 番」、「マーラー／交響曲第 8 番《千人の交響曲》」「マーラー／交響曲第 3 番」「マーラー／交響曲第 2 番《復活》」の CD をリリース。2024 年に小泉は終身名誉音楽監督となり、首席指揮者に太田弦が就任。またミュージックアドバイザーに篠崎史紀が就任。これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。

大阪交響楽団
1980 年「大阪シンフォニカー」として創立。創設者である、永久名誉楽団代表・敷島博子が『聴くものも、演奏するものも満足できる音楽を！』を提唱。いつも聴衆を“熱く”感動させるその演奏は、「魂の叫び」「情熱の音」と評されている。2001 年 1 月に、楽団名を「大阪シンフォニカー交響楽団」に、2010 年 4 月「大阪交響楽団」に改称した。2022 年 4 月、新指揮者体制として、山下一史（常任指揮者）、柴田真郁（ミュージックパートナー）、髙橋直史（首席客演指揮者）の 3 名が就任、さらなる楽団の飛躍が期待されている。
2006 年 4 月、大和ハウス工業株式会社 樋口武男氏（現 名誉顧問）が運営理事長に。その後、2018 年 11 月公益社団法人大阪交響楽団理事長に就任。2020 年 10 月に、理事長職を大和ハウス工業株式会社 芳井敬一氏（現代表取締役会長／CEO）にバトンタッチした。
公式サイト：https://sym.jp

琉球交響楽団
NHK 交響楽団で首席トランペット奏者を務めた祖堅方正が 1990 年に沖縄県立芸術大学教授に就任し、郷里で教鞭をとることになったことからはじまる。沖縄では実力の高い奏者でもプロとして活動するための受け皿がなく、卒業後は他の都道府県に出ていかざるを得ないことを憂いた祖堅は、沖縄にプロのオーケストラを立ち上げたいという思いを募らせ、2001 年に琉球交響楽団が創設された。
定期演奏会ほか、小中高校での音楽鑑賞会や世界のウチナーンチュ大会、沖縄本土復帰記念事業など、演奏の機会は多岐にわたる。2016 年大友直人が音楽監督に就任。2021 年にはサントリーホールにて初の東京公演を、翌 2022 年にはシンフォニーホールで初の大阪公演を開催した。これまでにリスペクトレコードより 2 枚の CD をリリース。2020 年に発売された 2nd アルバム収録曲「沖縄交響歳時記」はコロナ禍の影響で地元での演奏会開催が叶わなかったものの、設立 25 周年となる 2026 年の定期演奏会で披露され好評を博した。県民に親しみ愛され、国際色豊かな沖縄県の顔となる交響楽団を目指し活動している。
公式サイト：https://www.ryukyusymphony.or.jp

札幌交響楽団
1961 年に発足した北海道唯一のプロオーケストラ。「札響」の愛称で親しまれ、2026 年に創立 65 周年を迎えた。冷涼で雄大な北海道の風土を思わせる透明感あふれるサウンドとパワフルな表現力で全国的にも高い評価を得ている。世界でもアメリカ、英国、ドイツ、イタリア、東南アジア、韓国、台湾で演奏、各地で好評を博し、北海道・札幌の名を広めている。
歴代の指揮者には、名誉創立指揮者・荒谷正雄をはじめ、ペーター・シュヴァルツ、岩城宏之、秋山和慶、尾高忠明、マックス・ポンマー、ラドミル・エリシュカ、マティアス・バーメルトらが名を連ねる。現在は、首席指揮者エリアス・グランディ、名誉音楽監督（2026 年 4 月より桂冠指揮者）尾高忠明、友情指揮者広上淳一、首席客演指揮者下野竜也、正指揮者川瀬賢太郎を擁し、北海道から世界へと発信を続けている。年間約 120 回の演奏活動を行うほか、教育・福祉分野での地域貢献にも力を注ぎ、全道で音楽文化の振興に寄与している。

山形交響楽団
1972 年、東北初のプロオーケストラとして誕生。東京・大阪での「さくらんぼコンサート」など年間 150 回に及ぶ公演を実施している。
2007 年から 2015 年まで「アマデウスへの旅」（モーツァルト交響曲全曲演奏会）を開催し、2017 年「モーツァルト交響曲全集」CD を発売。2008 年アカデミー賞映画「おくりびと」に出演。2020 年より「ベートーヴェン交響曲全曲演奏会」を、2022 年には「演奏会形式オペラシリーズ」をスタート。常任指揮者 阪哲朗とのオペラ演奏は高い芸術性と個性を育み、その成果は常に注目を集めている。2023 年 12 月より、動画配信サービス「U-NEXT」での映像配信を開始。
常任指揮者 阪哲朗、首席客演指揮者 鈴木秀美、ミュージックパートナー ラデク・バボラーク、ジュリアン・ラクリン、創立名誉指揮者 村川千秋、桂冠指揮者 飯森範親、名誉指揮者 黒岩英臣。
公式サイト：https://yamakyo.or.jp/

東京交響楽団
1946 年東宝交響楽団として創立。文部大臣賞をはじめとした日本の主要な音楽賞の殆どを受賞。川崎市、新潟市と提携し、コンサートやアウトリーチを積極的に展開する他、「こども定期演奏会」や「アジア・プロジェクト」等の多角的な活動も注目されている。新国立劇場のレギュラーオーケストラとして毎年オペラ・バレエ公演を担当。ウィーン楽友協会をはじめ海外公演も数多く行う。IT への取組みも音楽界をリードしており、2020 年ニコニコ生放送でライブ配信した無観客演奏会は約 20 万人が視聴、22 年には史上最多 45 台カメラを用いた《第九》公演を配信し注目を集めた。
近年は日本のオーケストラ界を牽引する存在として高く評価されており、音楽の友誌「コンサート・ベストテン」では 2022 年に《サロメ》が第 2 位、2023 年には《エレクトラ》が第 1 位に選出された。
2026 年 4 月よりロレンツォ・ヴィオッティが第 4 代音楽監督に就任した。

山下康介（編曲監修）
作曲家・編曲家。東京音楽大学作曲専攻「映画・放送音楽コース」（現ミュージック・メディアコース）卒業。映画「花筐／HANAGATAMI」「この空の花」などで知られる大林宣彦監督作品に多く携わったほか、NHK 連続テレビ小説「瞳」やドラマ「花より男子」、アニメ「ちはやふる」「ドラゴンボール DAIMA」、「仮面ライダーセイバー」、スーパー戦隊シリーズ「暴太郎戦隊ドンブラザーズ」、歴史シミュレーションゲーム「信長の野望」シリーズなどの音楽がある。また編曲家として「題名のない音楽会」などの放送用編曲をはじめ、billboard classics などオーケストラのためのコンサート用編曲を多数手がけている。現在、洗足学園音楽大学教授、東京音楽大学特任教授。一般社団法人日本作編曲家協会（JCAA）理事。静岡いわた PR 大使。